

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.25

2015.4
Spring
春号



平成27年3月5日 卒業式・謝恩会

卒業を迎え、学生生活を振り返ってみると、たくさんの方々の支えがあったことが思い出されます。看護の奥深さを教えて下さった先生方や臨床の指導者さん、未熟な私たちを笑顔で迎えて下さった患者さん、温かく見守ってくれた家族、そして同じ夢をかなえるために切磋琢磨してきた仲間たち、感謝の気持ちでいっぱいです。4月からは看護師として、それぞれ新たな道を歩み始めます。公立南丹看護専門学校で学んだことを生かし、思いやりのあふれる看護師になれるよう、これからも学びを積み重ねていきたいと思います。

公立南丹看護専門学校 卒業生 やました えり 山下 恵莉

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>





公立南丹病院広報誌

病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

患者さまの権利と責務

私たちは患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2015.4

Vol.25

春号

CONTENTS

- 春の訪れ ①
- 「ありがとうございました」 ②
- 「お世話になりました」 ②
- 赴任のご挨拶 ③
- 診療科紹介[内科系]－小児科 ⑤
- 診療科紹介[外科系]－呼吸器外科 ⑥
- 平成26年度
「第3回緩和ケア講演会」 ⑦
- 病院薬剤師の役割 ⑦
- 感染制御チーム(ICT)の
エボラ熱感染防止対策の取り組み ⑧
- 公立南丹看護専門学校 ⑨
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑩
上原医院
上原デンタルクリニック
- 公立南丹病院に
コンビニエンスストアが開店しました
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

春の訪れ

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也



梅の花の馨しい香りが漂い、桜のつぼみも膨らんで春の訪れを感じさせる季節となつてまいりました。日本人がこよなく愛する桜は平安の昔より「花」と詠まれれば「桜」を意味するほど特別な存在であったようです。

「ひさかたの光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ」など、のどかな日の光が射す春の日に、桜の花が散っていく情景を詠んだ紀友則の歌は百人一首の中でも最も有名な和歌の一つです。

日本は昔から桜にまつわる美しい言葉もたくさんあります。花びらを風流に見たてて、満開の桜は「花盛り」、満開になって散る桜を「零れ桜」、花びらが散るさまは「桜吹雪」、水面に散った花びらが吹き寄せられて流れていく様子を「花筏」、水面に散った花びらが敷き詰められた様子を浮橋に見たてて「花の浮橋」などと表現します。

大学生時代を京都で過ごし始めた頃、私は京都の桜の美しさに心を奪われた記憶が今も鮮明に残っています。銀閣寺から哲学の道にかけて疏水沿いに咲き乱れる桜や鴨川の畔を美しく飾る桜並木は、学生であった当時の私の青春時代の楽しかったことや少し哀愁に満ちた思い出とともに、今も心に懐かしく蘇ってきます。毎年、桜が咲く季節には家族とともに少しの時間でも桜並木を歩きたくなる気持ちになるのは、桜の美しさとともに過ぎ去った懐かしい郷愁に浸りたいがためかもしれません。

春は新しい出会いと別れの季節でもあります。公立南丹病院で長年にわたり貢献して頂き、退職あるいは転勤になられる職員の皆様には心から御礼とこれからの人生の御多幸、御活躍をお祈り致します。また4月から勤務頂ける職員の皆様には心からの歓迎と今後の御活躍を期待しています。

医療を取り巻く環境は大きく変化しております。少子化もあいまって、日本は世界に類をみない速さで少子超高齢化社会を迎えています。医療・介護・福祉を適正に提供するための議論が行われていますが、団塊の世代が75歳以上になる2025年を10年後に控え、地域包括ケアを構築するとともに、今後の医療提供体制のあるべき姿を示す地域医療構想が策定されようとしています。これは病院の機能を高度急性期・急性期から回復期・慢性期にわけ、二次医療圏ごとに各病床機能の必要病床数と役割分担を明確にして医療を効率化していくものであると思われます。また今年10月には医療事故調査・支援センターも設置される予定です。当院でも4月からは医療安全管理室を新たに設け、医療の質とともに、さらに医療の安全を守っていくように努力します。

公立南丹病院にはそれぞれの診療科が持つ高度な医療機能やひたむきに医療現場で活躍する職員の皆様がたくさんいます。各診療科に垣根がなくチーム医療が行えることが当院の良き伝統であると考えます。4月からは新しい仲間を迎え南丹医療圏での最終拠点病院としての責任と自覚を持ち、益々発展していくように職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援をどうか宜しくお願い致します。桜の季節が訪れ、皆さまの春がさわやかで心温かなものでありますようにお祈りしております。

「ありがとうございました」

副院長 ^{うへだ ゆうじ} 上田 祐二



10年間勤めました公立南丹病院を、この3月末をもちまして退職させて頂くことになりました。最初の赴任は、大学での2年間の外科臨床研修を終えたばかりの昭和62年春でした。これから駆け出す外科医のまだヒヨコでありました。当時の南丹病院はひと世代前の建物で、今の第一病棟（旧病棟）もまだありませんでした。手術室は古びた病棟の1階にあり、夏には術野上空にたまにハエも飛び、手術室隣の詰所の冷蔵庫には、当時発売間もないアヒスXパXドXイが沢山冷えていました。そういう郷愁にかられる時代でありました。現在、外科（消化器・小児・呼吸器）のスタッフは総勢9名で麻酔科医も4名おり、外科だけで年間400例前後の全身麻酔手術をこなしていますが、当時、外科スタッフは5名で麻酔科の常勤医はおりませんでした。しかし、そのような環境にありましても今の半数近くの

手術をこなしていたように記憶しています。朝早くに回診とガーゼ交換を済ませた後に手術室に駆け込み、初めての執刀医として、また時には麻酔医として忙しく診療に従事し、臨床医、外科医としての原型を築くことができました。まだ若かりし自分が診療を担当させて頂いた、多くの地域住民の方々や当時の病院スタッフに深く感謝致します。ありがとうございました。

そして今日に至る2回目の赴任は、今から8年前の平成19年の春でした。外科部長としての赴任でしたが、最初の赴任の後18年間という長過ぎる時を再び大学で過ごした後でしたので、極めて特化した狭い領域の消化器外科しかできない少し偏狭な外科医になってしまっていました。しかし、外科のスタッフの多くは昔から仲間の府立医大医局の先輩や後輩たちでしたし、病棟や手術室、事務局には最初の赴任の際に共に働いた多くのスタッフ（看護師、臨床工学技士、薬剤師、事務局職員等）の顔も見つけることができました。そして、皆と働くうちに地域中核病院としての当院の役割を再認識し、それとともに自分の為すべきことも理解し成長していくことができました。ありがとうございました。診療科が細分化し医療の分業が進みつつある今日ですが、外科医はまだ幅広い診療に従事しなければならないのが現実です。当院のような中核病院では外科の主たる対象疾患が「がん」でありますので、手術のみならず化学療法（抗がん剤治療）や緩和医療（心身の苦痛のケア）も担当しなければなりません。これら多岐にわたる医療を患者さん目線で有効かつ安全に施行するためには、多職種の医療スタッフが関与して患者さんをサポートする「チーム医療」が極めて重要です。私も当院でのチーム医療を通じて、患者さんの病のみではなく人を診る全人的医療を少なからず習得することができたのではないかと感謝しています。一人一人の地域の患者さんとの出会いが、何にも代えがたい貴重な経験でありましたことは言うまでもありません。目を閉じて10年を振り返りましたら、多くの患者さんの顔が思い浮かべられます。多くの事を教えて頂きました。ありがとうございました。

4月から大阪市内の病院に勤務することになりましたが、当院での経験を最大限生かして、新たな土地で新たな気持ちで地域医療に貢献したいと考えています。そしてまた、当院が南丹医療圏の責任ある中核病院として、益々の発展を遂げられることを願っています。皆さん、10年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「お世話になりました」

院内売店 ^{にしお はるみ} 西尾 春美

昭和34年諸事情があり、お寺の住職である義父と義母が売店を経営することになりました。お商売は未知の世界です。決して順風満帆ではなかったようです。看護婦さんを大事にされ、自宅に招きお正月を共に楽しんだり、看護学校の修学旅行に同行させて頂いたり、家族のような病院と売店だったそうです。

昭和50年診療棟が木造から現在になり、売店は外に出てプレハブではありますが一戸の建物となり、皆さんの喜怒哀楽を発散する場所ともなりました。裏にはテニスコートがあり、大嶋先生のテニススタイルは素敵でした。

昭和63年義母が70歳になり、私と引き継ぐ事になりました。その後病棟・診療棟が増築・新築される度に、売店はオベ室横の医師当直室、患者様の沐浴室と移転しましたが、その都度それなりに皆さんと楽しんで、お商売させて頂くこともできました。

平成15年に現在の場所となりました。平成24年には新館売店もする事になりましたが、経営は冷や汗ものでした。お弁当を南丹市の業者さんに頼み手作り弁当にし、病院に來たら売店によるのが楽しみと、思ってくださいるように私なりに頑張ってきました。亡き梶田前院長から“僕の病院のお母さん”と呼んで頂いた義母も、先生の後を追うかのように昨年の7月96歳で他界しました。義母が29年、私が27年の56年間・・・、今日を迎えられましたのも、皆様に売店を助けて頂いたおかげと深く感謝しております。私も売店で皆様にお出会いました事を私の宝物とさせて頂き、売店を閉めさせて頂きます。ありがとうございました。南丹病院の益々のご発展と皆様のご健康ご多幸を、心よりお祈り申し上げます。最後にこの場を作って頂いた広報委員会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



赴任のご挨拶

総 長

ふしき しんじ
伏木 信次（昭和49年卒）

このたび公立南丹病院総長を拝命いたしました。私はこの3月末日まで2年間、京都府立医科大学副学長（教育・研究・産学連携担当）を務めておりましたが、他方で、分子病態病理学教授として長年、基礎医学教育・研究の一端を担う立場にありました。学生時代を存じ上げている医師が南丹病院で活躍されているお姿を拝見し頼もしい限りです。2代目総長となりますが、微力ながら病院の発展に尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



外 科

やまおか のぶき
部長・統括部長・手術部長 山岡 延樹（昭和61年卒）

南丹地域の中核拠点病院で医療に携わる責任の重さと真摯に向き合い、患者さまをはじめ皆様から「良い病院」「良い外科」とのご評価を頂けるよう日々研鑽したいと存じます。まだまだ発展途上の外科医です、どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科

すずき けんたろう
医長 鈴木 建太郎（平成16年卒）

4月より消化器内科に参りました鈴木です。新たな土地で日々勉強させて頂きたく存じます。今後とも宜しくお願いします。



循環器内科

くぼた ひろし
医員 窪田 浩志（平成25年卒）

本年度より循環器内科に勤務します窪田と申します。初期臨床研修の2年をこの南丹病院で学ばせて頂きました。地域の皆様のお役にたてるように精いっぱい努力させて頂きますので、今後とも宜しくお願い致します。



みやわき だいすけ
医員 宮脇 大典（平成25年卒）

本年度から赴任してきた宮脇と申します。昨年度までは、京都府立医大病院で研修医として働いておりました。

この南丹市という新たな土地でも患者様一人一人に対して、誠心誠意医療を行っていく所存でございますので、これからよろしくお願いします。



小児外科

いのうえ まほ
医員 井上 真帆（平成25年卒）

今年度より小児外科・外科の医師として公立南丹病院にお世話になります。私自身は滋賀県出身であり、南丹の豊かな自然に故郷のような懐かしさを感じております。患者様の痛みに寄り添い、より快適な生活への復帰をお手伝いさせていただくため誠心誠意頑張っていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経内科

医員 ^{たけわき だいき} 竹脇 大貴 (平成24年卒)

本年度より脳神経内科医として働かせて頂く竹脇と申します。1人でも多くの患者様のお役に立つ事ができるように日々精進して努力していく所存です。未熟な点が多く、お世話になる事が多々あるかと存じますが何卒よろしくお願い致します。



産婦人科

医員 ^{たるみ ようすけ} 垂水 洋輔 (平成24年卒)

平成27年4月より産婦人科としてお世話になります。まだまだ至らぬ所もあり皆様のお世話になることもあると思いますが、地域の方々に貢献できるよう尽力しますので、厳しい御指導御鞭撻をよろしくお願い致します。



整形外科

医員 ^{しみず ゆういち} 清水 佑一 (平成24年卒)

平成24年に自治医科大学を卒業後、京都府立医科大学付属北部医療センターで臨床研修し、京都府立医科大学付属病院整形外科で診療にあたりました。患者さんにわかりやすい説明を心がけて、診療を行ってきたいと考えております。



眼科

医長 ^{かまた か} 鎌田 さや花 (平成17年卒)

これまで京都市立病院にて7年間お世話になりました。眼科は白内障を中心として手術も多いので、たくさんの方に安心して治療に臨んでいただけるよう、頑張りたいと思います。また生後8ヶ月の子どもがおり、子育てにも奮闘中です。どうぞ宜しくお願いします。



泌尿器科

医員 ^{みやした まさつぐ} 宮下 雅亜 (平成20年卒)

4月から泌尿器科医師として勤務させて頂いております、宮下雅亜と申します。よく「まさあ」とか「があ」と読まれますが、「まさつぐ」と読みます。昨年度までは京都府福知山市にある、福知山市民病院で勤務していました。診療へのモットーとしては「丁寧な説明と迅速な決断力」です。少し変わった髪形をしていると言われることがありますが、地毛ですので皆さん宜しくお願い致します。



歯科・口腔外科

医員 ^{おかの こういちろう} 岡野 光一郎 (平成26年卒)

初めまして。今年度より歯科口腔外科に勤務させていただく岡野と申します。憧れの南丹病院で、患者様ひとりひとりの対話を大切にしながら、一つでも多くのことを学び、地域医療に貢献できるよう全力を尽くしていく所存です。みなさまどうかよろしくお願い致します。



小児科 *Pediatrics*

小児科副部長 おたべ 小田部 修 おさむ

小児科は伊藤陽里部長、大内一孝医長、後藤幸子医長、末松正也医員、田浦喜裕医員、小田部の6名の常勤医で診療を行っています。各々が午前的一般外来を行いながら、午後には予約診察枠として、入院中に担当した患者さんや一般外来から継続的に治療していく必要のある患者さんの診療、乳児健診、予防接種外来などを行っています。また、専門性の高い疾患領域、例えばてんかん等の神経疾患、低身長などの代謝内分泌疾患、先天性心疾患などの循環器疾患、慢性腎炎などの腎疾患については、京都府立医科大学から専門医を招き、診療にあたっています。加えて、近年では地域の重症心身障害児の増加を受け、当院や亀岡市内の訪問看護ステーションと連携を図りながら、在宅患者さんの診療にも取り組んでいます。

さて、小児科医療の最大の特徴といえば、“多様性”ということになるでしょう。一口に小児科、といっても対象となる年齢層や疾患は様々です。生まれたての新生児から慢性疾患で成人となった方までと年齢は幅広く、疾患についても特定の臓器に限ることなく、先

天的な病気も含め年齢毎の様々な特徴を勘案しながら、いわゆる“内科”系から耳鼻科や眼科・泌尿器科領域などの“境界領域”まで幅広く診療しています。また、乳児健診や予防接種外来を通して子ども達の発達のフォローアップや予防医学も行っています。そして育児や予防接種計画などの家族からの相談に対しては看護師と共に対応し、子ども達だけではなく母親を中心とした家族の問題をケアしています。さらに、虐待の防止・発見や不登校などに対しては、必要に応じて行政と連携しながら子ども達と社会とのつながりに関する問題にも取り組んでいます。

このように、我々小児科医は、疾患の治療だけでなく、子ども達の成長発達を見守りつつ、家族を中心とした子どもを取り巻く環境にも心を配れるような細やかな診療を目指しています。これからも地域の基幹病院として、亀岡・南丹市を中心とした口丹波地域の子ども達とご家族が安心して過ごせるよう、尽力していきたいと考えています。



呼吸器外科 *Thoracic Surgery*

呼吸器外科部長 いわさき やすし
岩崎 靖

呼吸器外科では原発性肺癌を中心に転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、気胸等の手術を行っていて、2014年の当科の全麻症例は40例でした。当院では呼吸器外科の常勤は1名ですが、京都府立医科大学呼吸器外科から手術支援をしていただき、安全のためできるだけ呼吸器外科医2名以上で手術を行うようにしており、院内の外科の先生にもご協力頂いて手術を行っています。胸腔鏡を併用した手術を中心に低侵襲化をはかる一方で過不足のない手術を行うようにしています。

近年の画像診断の発達に伴い、小型肺病変やいわゆるスリガラス陰影と呼ばれるような病変がよく発見されるようになってきました。このような、手術中に確認が難しい病変に対して、放射線科と協力してリピオドールという造影剤でマーキングを行って切除することを行っています。

当科に初めて受診されたときに、できる限り診断や治療の全体の流れについて時間をかけて説明し、今は何のためにこの検査をしているのか、今後どのように検査治療が進んでいくのか理解しながら検査治療を受けて頂くように心がけています。そして、患者さんおよびご家族の意向も十分伺いながら治療の選択を行っています。毎週火曜日には、総合内科の先生と呼吸器カンファレンスを行い、肺癌をはじめとする呼吸器疾患の症例に対する診断・治療について検討しています。

また、術後早期に日常生活に戻るよういろいろな取り組みを行っています。まず、術前から体力を落とさないように廊下歩行や階段昇降を行ってもらい、術後も早期離床してもらっています。もちろん、これらは患者さんの状態に応じてですが、必要なら積極的



呼吸器カンファレンス

にリハビリにも介入してもらいながら周術期管理を行っています。手術の創部（きず）は糸が外に出ない埋没縫合を行い創部の表面を専用の接着剤でコーティングしているため、ガーゼや消毒が不要です。術後、ドレーンという管を胸の中に留置しますが、ドレーンは術後2日目には9割近くの方で抜去していますので、そうするとシャワーが可能になります。また、午前中の手術であれば、当日の夕食から食べて頂いています。このような取り組みにより、術後早期退院が可能となっています。

現在、放射線治療機器設置のための工事中で平成27年10月から放射線治療が行える予定であり、そうになると呼吸器疾患の治療の幅が広がります。内科の先生と協力しながらこの南丹地区の呼吸器外科医療を担っていきたいと思いますので、どうか皆さまよろしくお願い致します。

平成26年度 「第3回緩和ケア講演会」

前 在宅医療センター 看護師長 にしむら かずこ 西村 和子



3月14日「ガレリアかめおか」において、緩和ケア講演会を開催しました。毎年、地域住民と保健・医療・福祉従事者を対象に開催して、今年で5年目を迎えます。今年度は、緩和ケアの第一人者であり、日本で最初にホスピス・ケアを始められた柏木哲夫先生かしわぎてつおをお迎えし、「生命せいめいといのちを支える」というテーマでご講演をいただきました。

まず、笑いは心の扉を開く、と笑いの大切さをお話になり、川柳を交えたユーモアのある講演に、何度も会場を笑いの渦に巻き込んでいました。

生命は限りあるもので、痛みなどの症状をコントロールすることが生命を診ることである。そして、いのちとは無限であり、その人の存在の意味や価値観を表し、次世代につないでいくことができるものである。2,500人余りの看取りをされた先生の言葉には、とても重く深いものを感じました。「感性」についてのお話では、感じること、感動すること、そして行動することが感性の3要素であると、飛行機の客室乗務員の親切なもてなしのエピソードを通して話され、目頭が熱くなる感動を覚えました。まさに行動をしてこそ感性は完成される。また、また、笑いの部分でした。

患者さんの表情がわかる資料を見ながら、患者との「距離感」について話されました。「患者にはその日その日の距離がある。」と、距離によって患者さんの表情が変わることを捉えた写真を見せながら、ちょうどいい距離を示され、なるほどと思える内容ばかりでした。

いのちに寄り添っている私たち医療者は、患者さんの期待されることをわかっているだろうか。一に「治してほしい」二に「苦しみを取ってほしい」三に「気持ちをわかってほしい」これらの期待されていることに応えられるよう、今後も研鑽し、技術力・人間力を磨いていきたいと思います。柏木先生のところが温かくなるご講演を、皆さんとともに聴くことができたことに感謝いたします。

病院薬剤師の役割

薬剤部病棟業務部門長 むらやま けいこ 村山 佳子

私たち病院薬剤師は、入院患者さんの調剤、注射調製、医薬品管理、服薬指導(お薬の説明)など様々な業務を行っています。入院患者さんにとっては、『服薬指導』が最も目にする機会が多いのではないのでしょうか。お薬の説明だけにとどまらず、病棟に常駐し、医師、看護師をはじめとする医療スタッフと連携をとりながら、入院患者さんに安心して最適な薬物治療を受けていただけるよう、取り組んでいます。

入院患者さんやご家族と面談を行い、持参されたお薬、市販薬や健康食品などの内容や服薬状況、アレルギー・副作用歴を確認します。その上で、飲み合わせや重複、治療において注意が必要なお薬の情報を医師や看護師に伝えています。

できるだけ多く入院患者さんを訪問させていただき、お薬の効果や副作用を考えて、患者さんの状態に見合ったお薬の選択や用量を医師に提案し、お薬が適正に使用されるよう努めています。

最新の知識や技術を学び研鑽をつみ、薬の専門性を活かして、入院患者さんの回復を支援していきたいと考えています。より身近に薬剤師がいることを知っていただき、お薬についてわからないことや気になることなどございましたら、ご遠慮なくご相談下さい。

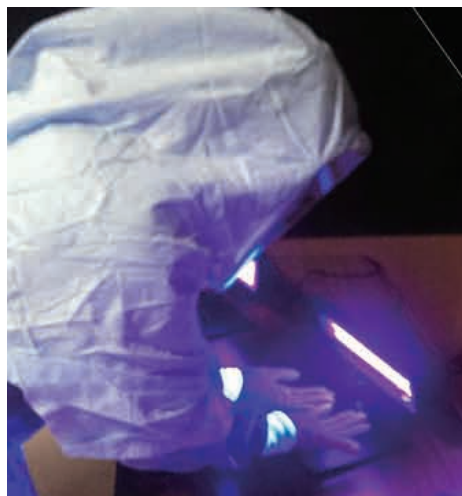


感染制御チーム（ICT）の エボラ熱感染防止対策の取組み

院内感染対策室 看護師長 うえだ たかこ
感染管理認定看護師 上田 多加子

平成26年の西アフリカエボラ熱流行は、ギニアおよびその周辺国で平成25年12月頃から流行し始めました。日本では平成26年8月8日、厚生労働省健康局結核感染症課より「エボラ出血熱疑い患者が発生した場合の標準的対応フロー」が発表され、当院もそれに従って問診に海外渡航歴と発熱に関する質問を追加しました。さらにエボラ熱疑い患者の診療体制について検討し、安全に診療が行えるよう職員教育を行っています。今回は職員教育の取組みについてご紹介いたします。

刻々と状況が悪化するエボラ熱の報道を受けて、当院では10月に院内感染対策研修会を開き、ICT委員である小児科副部長小田部修医師が「最近の話題～新興ウイルス感染症について～」と題した講演を行って、職員にエボラ熱に



関する基礎知識と最新情報を伝え、感染予防の重要性を啓蒙しました。その上で当院の職員が安全に職務を遂行するために、京都府医師会作成の個人防護具着用動画を教材に使用し、全科医師および看護師長、副看護師長、救急室看護師に呼びかけ、個人防護具を実際に着用する訓練を12月、1月、2月に企画しました。

会場では蛍光剤を血液や吐物に見立て、それを手袋やエプロンに塗りつけ1枚脱ぐたびにブラックライトで蛍光剤の付着がないかを確認しながら行いました。“致死率は50%!”、“感染した医師や看護師が死亡した!!”といったショッキングな報道がなされたためか、ひとりひとりが真剣に訓練に取り組んでいたと思います。

さらに1月28日には京都府立医科大学病院感染症科部長である藤田直久先生ふじた なおひさに「エイズもエボラも怖くない?」をテーマにご講演いただき、最新情報とともに京都府で唯一エボラ熱患者の治療に当たる府立医大病院の感染対策について教えていただきました。その中で大変緊張感のある職員研修をされていること知り、非常に共感できる貴重な学びを得ることができました。

今後エボラ熱に留まらず心配されることは、海外旅行が手軽になり世界中の人々との交流が大変容易になった結果、季節や地域を問わず感染症が国内に輸入され大流行する可能性が高くなっている現実です。公立南丹病院が今後ともこの地域の感染症医療の第一線として役割を果たすために、ICTは尚一層職員研修に力を注ぎ、地域の医療機関ともさらに連携を深め、地域ぐるみで感染対策に取り組みたいと考えております。今後とも当院ご来院の際には感染対策にご理解をいただき、手洗いや手の消毒にもご協力をお願いいたします。



「実習認定式」

1年生 たけうち ゆか 竹内 裕香

「われは、ここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん。」数々の技術試験を乗り越え受けることができる実習認定式。私達学生にとっては看護師になるためにこれから様々な経験をしていく分岐点となるものである。

迎えた本番、ナースキャップを戴帽し、部屋は暗く、蝋燭の灯が揺らめく厳かな雰囲気の中で私達は誓詞を斉唱する。これまでの日々の学び、練習を思い出しながら声を合わせる。手元に持っていた蝋燭の灯を一齐に消し、目指す看護師像を誓いの言葉として参列者の前で誓う。式は肅々と行われた。ハキハキと言う学生もいる中、私は正直緊張し、いつ頭の中が真っ白になるかばかりを気にしていた。花束贈呈や記念撮影を終えると、無事すべきことを成し遂げ、全体にホッとした空気が流れた。この日のために何度も全員で練習し、先生方とも相談してきたから無理もないだろう。

しかし、この式で私達の取り組みが終わる訳ではない。むしろ今日を境にこれからの日々が変わっていく。認定式は看護師になるための決意を新たにし、それに向けて努力するための出発点である。誰かがこう呟いたのが聞こえた。「これからだよな」、かくいう私も「やっとスタート地点に立ったんだな。」という気持ちだった。きっと皆も感じているはずだ。看護の道に終わりはないから。「われはわが力の限りわが任務の標準を高くせんことを努むべし」皆で斉唱したナイチンゲール誓詞が思い出された。



「基礎看護学実習Ⅲ」を終えて

2年生 いだ きょうこ 井田 恭子

今回の実習は、入学当初より学んできた基礎看護学の集大成となるものでした。看護とは、患者さんの健康上の問題を解決するために関わっていくことです。基本的な考えや方法は、講義の中で学んできました。そして、今回の実習では、初めてその一連の考え方や方法を使って患者さんと関わり、お世話させていただきました。その人に合った関わりを持つためには、常に「患者さんにとって」という目線で考えることが大切だということを学びました。自らの関わりによって患者さんに良い結果をもたらすことができれば、それが看護のやりがいであり、楽しさに繋がるとも感じました。

3年生になると専門領域別実習が始まります。看護の役割について意識し、常に多くのことを吸収しようという思いを持って一步一步成長していきたいと思っています。



近隣の連携医療機関の先生方

上原医院
うえはら ひさかず
上原 久和

「お世話になっています」

平成14年に継承開業し、早いもので13年が経ちました。当初は前院長の父芳久が主に成人の慢性疾患の方を、私が主に小児を診ておりましたが、一昨年に父が逝去後は一人で診療しています。現在も永きにわたり通院中の方がいらっ



しゃいますが、病状に変化があればすぐ南丹病院にお世話になっています。そのような際、いつも迅速な対応、適確な指導助言を頂いていることにつき、紙面を借りて御礼を申し上げます。

当院は亀岡駅と市役所のほぼ中間に位置し、登園(校)前にも受診しやすいよう朝8時から診療していること、病児保育室を併設していることが大きな特色です。平成20年に開設した病児保育室は、年間約500名の利用があります。保育園に通園できない病児を専門的に保育看護することは、究極の子育て支援につながるものと確信して職員一同熱心に取り組んでいます。

地域住民にとって、「いざとなったら南丹病院がある」という安心感は絶大で、貴院へ厚い信頼が寄せられていることを日々実感いたします。医療者にとっても、いつでも引き受けてもらえるという貴院の存在は心強く、スムーズな連携をさせていただいていると感謝しています。しかし、真に有意義な病診連携には、「診」から「病」への流れのみに甘えてばかりはいられません。たとえば、不急の症状で時間外に救急受診をしないよう丁寧に患者指導・啓蒙を行うことなど、われわれ「診」の役割として、過度に「病」に集中する負担軽減に協力することも重要であると考えています。口丹波地域の貴重な社会資本としての南丹病院が益々発展されるよう、当院と

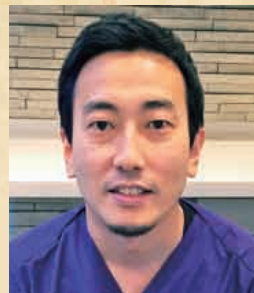


しても微力ながら尽力して参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

上原デンタルクリニック
うえはら ひさはる
上原 久晴

「お世話になっています」

亀岡の西つつじヶ丘に開業して4月で2年になります。この短い期間でも、南丹病院の歯科口腔外科の先生及び、スタッフの方々には外科処置や軟組織疾患の鑑別診断等、数多くお世話になっております。



日々進歩する医療のお陰で、重篤な疾患に罹患されている患者さんが、一見これまでと変わらない日常生活を営む事ができる今日、診療の中で初めてわかる御苦労や、その疾患への対応の難しさと向き合う毎日です。

歯科治療は、感染と力のコントロールが重要とされます。齲蝕等の感染した歯質や歯牙、歯根面に付着したプラーク・歯石を除去し、歯牙や顎骨に加わる咬合力をどの様に分散していくのか考え、クラウンや義歯、インプラント、矯正治療等の治療計画を立案し進めていきます。

このためクリニックでの歯科治療の多くが、不可逆的な小外科処置ということもあり、高血圧や心疾患、糖尿病や骨粗鬆症等のケースでは、やはり個別の配慮が必要ですので、診療情報を提供頂ける専門科、処置を受けて頂ける歯科口腔外科が不可欠です。南丹病院の先生方には感謝しております。

開業して間もなく、以前南丹病院でお世話になっておりました父芳久が、懐かしの病院で、懐かしい方々に見守られながら逝きました。私の子供(双生児)、また私自身も貴院産婦人科の生まれです。これからもこの地域に欠かせない頼もしい病院として、益々のご発展を祈念しております。公私共々宜しくお願いいたします。



公立南丹病院にコンビニエンスストアが開店しました

平成27年4月1日から、本館1階（外来食堂あと）に病院コンビニエンスストアがオープンしました。コンビニには、弁当・飲料など食料品の他、入院や治療に必要な品物も販売しております。皆さまのご利用をお待ちしています。

営業日

年中無休

営業時間

7:00～21:00

※第2病棟側ではワゴン車による訪問販売、また、第2病棟5階には新たに自動販売機を設置します。
※本館側の売店のあとは、どなたでもが食事などが出来るイートインスペースとなります。



看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所の利用可。
寮（正職員のみ）利用可（月額10,480円）

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
公立南丹病院 総務課人事係

TEL 0771-42-2510（代） まで

詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。



<http://www.nantanhosp.or.jp>

編集後記

季刊号の広報紙を発行する毎に、四季の移ろいを感じます。南丹病院も放射線治療棟の稼働や、病院内コンビニエンスストアの導入など、常に進歩を続けているように感じられます。病院広報誌も、今後も地域の皆様へ最新情報を発信する季刊誌として愛されるように頑張って編集して参りますので引き続きご愛読をよろしくお願い致します。（広報委員 G.I）

